

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|---|----------------------------------|---------|---------|
| 事務事業名 | 鉄づくり体験事業 | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 文化振興課 |
| 施策① | 地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進 | 電話番号 | 27-7567 |
| 施策② | 郷土理解を深め、郷土への誇りと愛着を育む活動 | ハード・ソフト | ソフト |
| 重点プロジェクト | 学びの多様性の実現に向けて | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 補助 |
| 事業期間 | 平成21年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 近代製鉄発祥の地である当市の歴史を再認識し、先人から受け継がれてきた「ものづくりの精神」を子どもたちに伝え、郷土を愛する人材の育成を図るため、市内全中学一年生を対象に鉄づくり体験を実施するとともに、鉄の週間に合わせて、鉄の検定を実施する。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|---|--|
| 現状・課題 | |
| 釜石市の鉄の歴史を伝えるため、市内の小中学校に対し鉄づくり体験事業を実施している。学校現場は鉄のまち釜石としての郷土学習を得る場を模索している。本年度から参加希望の学校が増加しており、これに伴い経年劣化した設備の買い替え、整備が急務となっている状況である。 鉄の検定については、一般市民参加者の減少が目立つ。鉄にかかわる生涯学習の機会が望まれる一方でご当地検定である鉄の検定の魅力の向上が課題である。 | |
| 目的 | |
| 歴史・文化の継承の手段として、鉄づくり体験をはじめ鉄にかかわる学習の場を提供し、子供たちが郷土に誇りを持つ場を創出する。 市民に対しては鉄の検定が持つ「知る」魅力を活かし、気軽に参加できる検定を目指す。また認定を受けた方が伝承者としての活躍につながる検定となることが望ましい。 | |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|--|----------|----------|
| 主な活動 | | |
| 市内小中学校に対する鉄づくり体験 鉄の検定 鉄にかかわる学びの時間の提供 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 2,000 千円 | 2,000 千円 | 2,000 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|--|-----|-----|-----|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 適切 | 適切 | 適切 |
| 評価結果 | | | |
| 釜石市の歴史・文化を子どもたちが学ぶことによって、子どもたちが郷土に誇りを持つ場の創出につながる。また、市内全中学校が釜石市特有の授業を行うことで全員が歴史に触れる貴重な体験となることから、引き続き満足度の高い事業となるよう取り組みを展開されたい。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|--|----------------------------------|---------|---------|
| 事務事業名 | かまいし絆会議運営事業 | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 学校教育課 |
| 施策① | 地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進 | 電話番号 | 22-8833 |
| 施策② | 児童生徒の主体的な活動の推進 | ハード・ソフト | ソフト |
| 重点プロジェクト | 学びの多様性の実現に向けて | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 平成29年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 児童生徒の地元への愛着や互助の精神の醸成等を目的として、平成29年度から釜石市内の児童生徒で構成される「かまいし絆会議」を組織し、学校の枠組みを超えた様々な活動を行う。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|--|--|
| 現状・課題 | |
| これまで RWC に向けた様々な取組を、復興への感謝の気持ちをもって活動した。今後も活動を継続することで、子どもたちが引き続き自分たちの地域のことに関心を持ち、課題解決へ向け主体的に取り組む機会を提供する必要がある。 | |
| 目的 | |
| 地域貢献や社会参画への意識の向上のために児童生徒が主体的に取り組む活動を推進し、地元への愛着や互助の精神の醸成、地域の未来について関心をもつことを目的とする。 | |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|---|--------|--------|
| 主な活動 | | |
| (1) 児童生徒が釜石の未来について考え、交流する活動 (2) 地域に貢献する活動 (3) 各中学校区に応じた地域や社会とのつながりを大切にした活動 (4) その他目的を達成するための活動 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 513 千円 | 513 千円 | 513 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|--|-----|-----|---------|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 適切 | 適切 | 見直し余地あり |
| 評価結果 | | | |
| 児童生徒が地域の課題や未来のことに関心を持ち、自分たちで考えることにより、主体的に取り組むこと、実践力の向上につながることから必要であると判断した。なお、全児童生徒がメンバーであるということもあり、全員の温度感を統一させるための工夫を検討されたい。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|--|----------------------------------|---------|----------|
| 事務事業名 | 厨房備品更新事業 | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 学校給食センター |
| 施策① | 地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進 | 電話番号 | 29-1271 |
| 施策② | 学校給食を生かした食育の推進 | ハード・ソフト | ハード |
| 重点プロジェクト | | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 令和4年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 旧学校給食センターからの移設厨房備品については毎年実施している厨房機器点検において、冷機器等食材の保管に関わるものは早めの更新が望ましい旨を業者から情報提供されている。給食の主菜・副菜を調理する厨房機器に不具合や故障が生じた場合、修繕部品が製造中止等により調達できず修繕が不可能となり、調理が出来なくなることが危惧されることから、厨房備品の更新を行うもの。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| |
|---|
| 現状・課題 |
| ・釜石市内小中学校14校に栄養バランスを考えた完全給食を提供しているが、給食調理を行う厨房機器の劣化により均一な温度管理に支障をきたしており、食中毒のリスクが高まることが懸念されている。また、冷機器等、必要な作動停止等不測事態発生に不安を抱えつつある |
| 目的 |
| 安全安心な学校給食を学校の給食実施日に確実に提供し、学校給食を活かした食育の推進に繋げたい |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|-----------|-----------|----------|
| 主な活動 | | |
| 厨房機器更新 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 22,990 千円 | 19,800 千円 | 6,875 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|---|-----|---------|-----|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 適切 | 見直し余地あり | 適切 |
| 評価結果 | | | |
| 厨房備品の更新は子どもたちの給食を提供する環境、異物混入などに繋がるため、更新が必要であると判断した。なお、備品が高額なことから、複数の事業者で比較を行うとともに、平準化を図り、不具合が生じている備品から優先的に更新することが必要である。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|--|----------------------------------|---------|----------|
| 事務事業名 | 学校給食用牛乳保冷庫更新事業 | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 学校給食センター |
| 施策① | 地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進 | 電話番号 | 29-1271 |
| 施策② | 学校給食を生かした食育の推進 | ハード・ソフト | ハード |
| 重点プロジェクト | | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 令和4年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 市内小中学校 14 校に設置してある給食用牛乳保冷庫について、学校給食牛乳を適正管理し提供できるように設置から 20 年経過している 2002 年製保冷庫を使用している小学校 5 校、中学校 3 校の更新を行うもの。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|-------|--|
| 現状・課題 | <ul style="list-style-type: none"> 学校給食で提供する牛乳は学校給食衛生管理基準に基づき 10℃以下で保存することとなっている。しかしながら牛乳保冷庫の設置から 20 年ほど経過し適正温度で保存することが出来ないという事が発生し、その都度修繕等で対応をしてきている |
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"> 適正温度で牛乳を保存管理し、安全安心な学校給食を提供する |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|--|----------|----------|
| 主な活動 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 2002 年製牛乳保冷庫を使用している小学校 5 校、中学校 3 校について更新する | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 0 千円 | 1,184 千円 | 1,184 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|---|-----|---------|-----|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 適切 | 見直し余地あり | 適切 |
| 評価結果 | | | |
| 子どもたちに質のいい給食を提供するため、また、牛乳は気温により菌が繁殖しやすく、悪影響を及ぼす可能性があることから実施と判断した。なお、冷蔵庫が業務用でないといけない理由については精査が必要である。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|--|----------------------------------|---------|--------------|
| 事務事業名 | 子ども・子育て支援給付事業（給食費の一部無償化事業） | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 学校給食センター |
| 施策① | 地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進 | 電話番号 | 0193-29-1271 |
| 施策② | 学校給食を生かした食育の推進 | ハード・ソフト | ソフト |
| 重点プロジェクト | 人口減対策 | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 子育て支援 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 令和4年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 多子世帯の経済的負担を軽減し、子育て支援を推進するため、高校生以上を含む第3子以降の児童・生徒の給食費を無償化するもの。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|-------|---|
| 現状・課題 | 電気、ガス、食料品、日用品等の物価高騰で、各家庭の家計がひっ迫している。 |
| 目的 | 市内小中学校に就学している子どもが3人以上いる場合、その3人目以降の給食費を無償化し経済的負担を軽減することを目的とする。 |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|---|-----------|-----------|
| 主な活動 | | |
| 現在使用しているシステムの改修を行い、対象児童生徒を抽出し給食費の免除を行う。 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 15,000 千円 | 15,000 千円 | 15,000 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|---|---------|---------|-----|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 見直し余地あり | 見直し余地あり | 適切 |
| 評価結果 | | | |
| 基準の拡充により、更に子どもたちに平等に給食を提供することが期待されることから実施と判断した。なお、原材料の高騰分を補填するなどサービスを受けられる範囲の拡充も検討されたい。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|---|----------------------------------|---------|--------------|
| 事務事業名 | スクールバス購入事業 | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 学校教育課 |
| 施策① | 教育環境の充実とさらなる向上 | 電話番号 | 0193-22-8833 |
| 施策② | 学校施設の適正な維持管理と環境整備 | ハード・ソフト | ハード |
| 重点プロジェクト | | 新規・継続 | 新規 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 補助 |
| 事業期間 | 令和6年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 釜石市所有のスクールバスが初度登録から10年以上経過しているバスが多く、経年劣化も著しく故障が多発しているため、児童生徒の安全及びスクールバスの適切な運行のためスクールバスの更新を行う。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| |
|---|
| 現状・課題 |
| 市所有のスクールバスが経年劣化により故障が頻繁に起こっており、スクールバスの運行に遅れが生じたり、運行できなくなったりすることがある。 |
| 目的 |
| 児童生徒の安全を確保しながら適切なスクールバスの運行を行う。 |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|-----------|------|------|
| 主な活動 | | |
| スクールバスの購入 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 4,763 千円 | 0 千円 | 0 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|--|---------|-----|-----|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 見直し余地あり | 適切 | 適切 |
| 評価結果 | | | |
| 子どもたちが安心・安全に学校に登校することは保護者の安心にもつながることから、実施については理解できるが、乗り合わせや他のバスと調整も検討の余地があることから引き続き精査されたい。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|---|----------------------------------|---------|-----------|
| 事務事業名 | 学校環境整備事業（小学校） | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 教育委員会 総務課 |
| 施策① | 教育環境の充実とさらなる向上 | 電話番号 | 22-8832 |
| 施策② | 学校施設の適正な維持管理と環境整備 | ハード・ソフト | ハード |
| 重点プロジェクト | | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 令和2年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 市内小学校の校舎等について、児童が安全安心に利用できるよう施設の長寿命化を勘案しながら、計画的に改修等を行うもの。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|--|--|
| 現状・課題 | |
| 当市の学校施設は、建築年数が30年以上経過しているものが4割を超え、全ての小中学校施設について、計画的な改修を行いながら、適正な維持管理のもと長寿命化を進める必要がある。 | |
| 目的 | |
| 学校施設の長寿命化を計画的に進めることによって、学校で生活する児童生徒の安全性や快適性を確保しながら、教育環境の維持・向上を図るとともに、維持管理に係るコスト削減に努める。 | |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|---|------|------|
| 主な活動 | | |
| ①釜石市学校施設長寿命化計画に基づいた計画的な改修を行う。 ②学校規模適正化の方針に沿い、長寿命化計画の随時見直しを行う。 ③随時発生する施設の不具合に対する修繕対応を実施する。 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 7,139 千円 | 0 千円 | 0 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|--|-----|---------|---------|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 適切 | 見直し余地あり | 見直し余地あり |
| 評価結果 | | | |
| 児童が安心、安全に学ぶことができる環境の整備につながるため、改修は必要である。照明設備改修については、現在使用している水銀灯の生産が終了しているが、令和6年度は在庫の水銀灯を使用し、学校統合のスケジュールを明確にし、計画性のある修繕を実施されたい。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|--|----------------------------------|---------|-----------|
| 事務事業名 | 学校空調整備事業（小学校） | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 教育委員会 総務課 |
| 施策① | 教育環境の充実とさらなる向上 | 電話番号 | 22-8832 |
| 施策② | 学校施設の適正な維持管理と環境整備 | ハード・ソフト | ハード |
| 重点プロジェクト | | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 令和2年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 児童の熱中症対策及び学習環境改善のため、市内小学校の特別教室等にエアコンを設置するもの。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|---|--|
| 現状・課題 | |
| 市内小中学校の空調整備については、これまで段階的に普通教室・特別支援教室・職員室等に設置工事を行ってきたが、一部の特別教室には設置されていない状況である。国が取りまとめた令和4年9月1日現在の公立学校施設の空調（冷房）設備設置状況によると県内の設置率は普通教室 95.6%、特別教室 27.8%、体育館 1.4%となっている。 | |
| 目的 | |
| 児童の熱中症対策及び学習環境改善のため、市内小学校の特別教室等に空調設備を設置するもの。 | |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|------------------------|------|------|
| 主な活動 | | |
| 空調整備工事を実施し、学習環境の改善を図る。 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 9,669 千円 | 0 千円 | 0 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|--|-----|---------|-----|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 適切 | 見直し余地あり | 適切 |
| 評価結果 | | | |
| 児童が安心、安全に学ぶことができる環境整備につながるため、児童の熱中症対策及び学校環境格差として空調設備等の設置は必要であるが、学校統合のスケジュールが明確にされていないことから、計画性のある実施を検討されたい。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|--|----------------------------------|---------|-----------|
| 事務事業名 | 学校施設トイレ洋式化事業（小学校） | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 教育委員会 総務課 |
| 施策① | 教育環境の充実とさらなる向上 | 電話番号 | 22-8832 |
| 施策② | 学校施設の適正な維持管理と環境整備 | ハード・ソフト | ハード |
| 重点プロジェクト | | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 令和2年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 児童の快適な教育環境の向上を図るため、学校施設の既存の和式トイレを洋式トイレに改修するもの。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|-------|---|
| 現状・課題 | 一般家庭においてはトイレの洋式化が進んでおり、児童生徒が使い慣れた洋式トイレを安心して使用できるよう、学校トイレの洋式化が急務となっている。市内小中学校の洋式化率の低い学校について優先的に改修を進めていく。 |
| 目的 | トイレの洋式化により、学校施設の環境改善を図るもの。また、市内学校施設（校舎、体育館）については、災害時の避難所としての役割も担っており、防災機能の向上も図られる。 |

3. 主な活動及び事業費

| | | | |
|------|---------------------------------|------|------|
| 主な活動 | 学校施設のトイレ改修工事を実施し、快適な教育環境の向上を図る。 | | |
| 事業費 | R 6 | R 7 | R 8 |
| | 82,203 千円 | 0 千円 | 0 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|---|-----|---------|-----|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 適切 | 見直し余地あり | 適切 |
| 評価結果 | | | |
| 児童が安心、安全に学ぶことができる環境整備につながるため、全ての児童に対して優しい環境整備及び学校環境格差としてトイレの洋式化は必要であるが、学校統合のスケジュールが明確ではないことから計画性のある実施を検討されたい。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|---|----------------------------------|---------|---------|
| 事務事業名 | 教材備品等管理費（小学校） | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 学校教育課 |
| 施策① | 教育環境の充実とさらなる向上 | 電話番号 | 22-8833 |
| 施策② | 学校施設の適正な維持管理と環境整備 | ハード・ソフト | ハード |
| 重点プロジェクト | 学びの多様性の実現に向けて | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 令和3年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 学習指導要領に基づいた教育課程の実施のため、標準的に必要となるピアノ等の教材備品の整備を計画的に進めることにより教育環境の充実を図る。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|--|--|
| 現状・課題 | |
| 製造から長年経過しているため、ピアノ本体の劣化や部品の摩耗が進み、使用に支障が生じている。また毎年度実施しているピアノの調律の結果において、D判定が多くなってきている。 (R4年度末調律結果 全22台中 A判定:5台 B判定:10台 C判定:3台 D判定:4台) ※D判定:部品の傷みや摩耗・劣化がひどく満足な演奏ができない状態 | |
| 目的 | |
| 使用に支障が生じているピアノを入れ替えることにより、学校教育環境の充実を図る。 | |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|--|----------|------|
| 主な活動 | | |
| 教育環境を整えるため、現在配置されているピアノで交換が必要な学校について入れ替えを行う。 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 0 千円 | 3,053 千円 | 0 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|--|-----|---------|-----|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 適切 | 見直し余地あり | 適切 |
| 評価結果 | | | |
| 子どもたちの授業環境を整えることでより質のいい授業の提供が期待できることから継続されたい。なお、設置場所での調整も検討されたい。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|---|----------------------------------|---------|-----------|
| 事務事業名 | 学校環境整備事業（中学校） | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 教育委員会 総務課 |
| 施策① | 教育環境の充実とさらなる向上 | 電話番号 | 22-8832 |
| 施策② | 学校施設の適正な維持管理と環境整備 | ハード・ソフト | ハード |
| 重点プロジェクト | | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 令和2年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 市内中学校の校舎等について、生徒が安全安心に利用できるよう施設の長寿命化を勘案しながら、計画的に改修等を行うもの。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|--|--|
| 現状・課題 | |
| 当市の学校施設は、建築年数が30年以上経過しているものが4割を超え、全ての小中学校施設について、計画的な改修を行いながら、適正な維持管理のもと長寿命化を進める必要がある。 | |
| 目的 | |
| 学校施設の長寿命化を計画的に進めることによって、学校で生活する児童生徒の安全性や快適性を確保しながら、教育環境の維持・向上を図るとともに、維持管理に係るコスト削減に努める。 | |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|---|------------|------|
| 主な活動 | | |
| ①釜石市学校施設長寿命化計画に基づいた計画的な改修を行う。 ②学校規模適正化の方針に沿い、長寿命化計画の随時見直しを行う。 ③随時発生する施設の不具合に対する修繕対応を実施する。 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 0 千円 | 330,000 千円 | 0 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|---|---------|---------|---------|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 見直し余地あり | 見直し余地あり | 見直し余地あり |
| 評価結果 | | | |
| 生徒が安心、安全に学ぶことができる環境の整備につながるため、改修及び工事は必要であるが、甲子中学校については、学校統合のスケジュールが明確にされておらず、担当課の判断としても明確にされていないことから再精査のこと。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|--|----------------------------------|---------|-----------|
| 事務事業名 | 学校空調整備事業（中学校） | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 教育委員会 総務課 |
| 施策① | 教育環境の充実とさらなる向上 | 電話番号 | 22-8832 |
| 施策② | 学校施設の適正な維持管理と環境整備 | ハード・ソフト | ハード |
| 重点プロジェクト | | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 令和2年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 生徒の熱中症対策及び学習環境改善のため、市内中学校の特別教室等にエアコンを設置するもの。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|---|--|
| 現状・課題 | |
| 市内小中学校の空調整備については、これまで段階的に普通教室・特別支援教室・職員室等に設置工事を行ってきたが、一部の特別教室には設置されていない状況である。国が取りまとめた令和4年9月1日現在の公立学校施設の空調（冷房）設備設置状況によると県内の設置率は普通教室 95.6%、特別教室 27.8%、体育館 1.4%となっている。 | |
| 目的 | |
| 生徒の熱中症対策及び学習環境改善のため、市内中学校の特別教室等に空調設備を設置するもの。 | |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|------------------------|----------|-----|
| 主な活動 | | |
| 空調整備工事を実施し、学習環境の改善を図る。 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 0千円 | 12,144千円 | 0千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|--|---------|---------|---------|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 見直し余地あり | 見直し余地あり | 見直し余地あり |
| 評価結果 | | | |
| 生徒が安心、安全に学ぶことができる環境整備につながるため、生徒の熱中症対策及び学校環境格差として空調設備等の設置は必要であるが、学校統合のスケジュールが明確にされていないことから、計画性のある実施を検討されたい。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|--|----------------------------------|---------|-----------|
| 事務事業名 | 学校施設トイレ洋式化事業（中学校） | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 教育委員会 総務課 |
| 施策① | 教育環境の充実とさらなる向上 | 電話番号 | 22-8832 |
| 施策② | 学校施設の適正な維持管理と環境整備 | ハード・ソフト | ハード |
| 重点プロジェクト | | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 令和2年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 生徒の快適な教育環境の向上を図るため、学校施設の既存の和式トイレを洋式トイレに改修するもの。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|---|--|
| 現状・課題 | |
| 一般家庭においてはトイレの洋式化が進んでおり、児童生徒が使い慣れた洋式トイレを安心して使用できるよう、学校トイレの洋式化が急務となっている。市内小中学校の洋式化率の低い学校について優先的に改修を進めていく。 | |
| 目的 | |
| トイレの洋式化により、学校施設の環境改善を図るもの。また、市内学校施設（校舎、体育館）については、災害時の避難所としての役割も担っており、防災機能の向上も図られる。 | |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|---------------------------------|-----------|------|
| 主な活動 | | |
| 学校施設のトイレ改修工事を実施し、快適な教育環境の向上を図る。 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 0 千円 | 65,000 千円 | 0 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|--|---------|---------|---------|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 見直し余地あり | 見直し余地あり | 見直し余地あり |
| 評価結果 | | | |
| 生徒が安心、安全に学ぶことができる環境整備につながるため、生徒の学校環境格差としてトイレの洋式化は必要であるが、学校統合のスケジュールが明確にされていないことから、計画性のある実施を検討されたい。 | | | |

令和5年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和6年度～令和8年度）

1. 事業の概要等

| | | | |
|--|----------------------------------|---------|--------------|
| 事務事業名 | 学校適応支援員配置事業 | | |
| 政策 | 地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/子どもを育む環境づくり | 担当課 | 学校教育課 |
| 施策① | 教育環境の充実とさらなる向上 | 電話番号 | 0193-22-8833 |
| 施策② | 相談機能の充実 | ハード・ソフト | ソフト |
| 重点プロジェクト | 学びの多様性の実現に向けて | 新規・継続 | 継続 |
| 4つの柱 | 教育の充実 | 補助・単独 | 単独 |
| 事業期間 | 令和4年度～令和8年度 | | |
| 事業の概要 | | | |
| 不登校対策が喫緊の教育課題の1つとなっている現状を踏まえ、新たな不登校児童生徒の出現を防止するための施策として、学校を欠席がちであり、登校しても自分の教室以外の別室を居場所としている、いわゆる別室登校の児童生徒を対象とし、長期欠席になることを防ぐとともに、学級への復帰を支援することを目的に、支援員を中学校3校に配置し、不登校の改善を図るもの。 | | | |

2. 現状・課題及び目的

| | |
|---|--|
| 現状・課題 | |
| 令和元年度から令和3年度までの当市の不登校児童生徒の出現率を見ると、3年連続で沿岸南部教育事務所管内の出現率を上回っている。また、児童数が減少している中で、小学校の不登校人数は、令和3年度において令和元年度の4.8倍となっている。 不登校生徒への対策として、各学校では児童生徒の居場所として別室登校の対応を行っているが、現在の教員定数では十分に対応できず、また教員の負担増にもなっている。 | |
| 目的 | |
| 学校教育支援員を配置することによって、校内にフリースクール的な居場所をつくる。このことによって、学習支援や社会的な自立を促す支援及び個々に応じた支援を行うことで、不登校生徒の減少及び改善を図ることを目的とする。 | |

3. 主な活動及び事業費

| | | |
|--|----------|----------|
| 主な活動 | | |
| 学校教育支援員3名を市内中学校3校に各1名配置する。 (1) 学習支援、進路選択に関する支援 (2) 社会的な自立に向けた支援 (3) 学級復帰や改善に向けた校内のコーディネーター役 | | |
| 事業費 | | |
| R 6 | R 7 | R 8 |
| 9,636 千円 | 9,636 千円 | 9,636 千円 |

4. 評価結果

| | | | |
|--|-----|-----|-----|
| 妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| 適切 | 適切 | 適切 | 適切 |
| 評価結果 | | | |
| 現状を踏まえ、長期欠席児童生徒の数を減らしていくためにも、別室登校による支援体制の強化、学習環境の充実に必要事業であり、長期欠席の児童生徒を未然に防ぐことも可能であることから継続として判断した。引き続き問題、原因の解消に務めること。 | | | |